

令和4年度（2022年度）第1回ニセコ町総合教育会議 議事録

日 時 令和5年（2023年）3月6日（月）
午前10時40分開会～午後0時15分閉会

場 所 ニセコ町役場 災害対策室

出席者 片山健也町長、山本契太副町長、
片岡辰三教育長、下田伸一教育長職務代理者、越湖明美委員、
大橋理絵委員、巻礼子委員
阿部学校教育課長、中村町民学習課長、淵野こども未来課長兼幼児
センター長、三橋学校給食センター長、工藤総務係長

会議概要 以下の通り

1 開会、2 町長挨拶

町長：教育課題は大変多く、これから私たちがやるべきことはたくさんあると思いますので、是非忌憚のないご意見をいただきたいと思います。教育委員会会議は合議制の会議で、子どもたちの幸せを願って、住民のみなさんの代表である教育委員が民主的に物事を決めていくための会議です。ニセコ町の教育は、教育委員会会議において決定して、教育委員会会議の意思で動いているということを十分ご理解いただきたいと思います。これまでも何度も申し上げてきましたが、首長の強い意志が、結果的に子どもたちの意思を曲げて、かつて戦争に子どもたちを駆り立てたという歴史もありました。首長の権限から独立した機関として教育委員会という制度ができて、東京の近郊の市では、過去には選挙で教育委員を選ぶという制度を導入した自治体もありました。私自身、これまで子育てに関わってこなかったもので、反省も含めて、そのようなことがないよう、子どもの笑顔が輝く社会にしたいと思っていますので、是非ご意見を賜ればと思います。

3 議事

片山町長が議長として議事を進行。

(1) 令和5年度ニセコ町予算概要についての報告（町長）

町長：今回予算編成で議論をしたのは、教育備品です。今までは、学校現場から上がってきたものを、財政調整の中で数を減らしたり先送りにしてきました。

今回、ふるさと納税で教育に対し多額の応援をいただきましたので、備品関係で約1,900万円を計上させていただいたことで、学校現場の備品は整備されたと思っています。また、給食センターの食器類は、できるだけ環境に配慮したもので全て入れ替えをします。子どもたちの教育環境は、学校の先生たちの分も含めて良くなっているのではないかと思います。

憲法上、「義務教育はこれを無償とする」と書いています。国でも話題になっていますが、給食費など保護者に物凄く負担がかかっています。

今私が見て1番頑張っているのは、兵庫県明石市が給食費や医療費等かなり強力な応援をしています。ニセコ町は医療費は18歳まで無償化していますが、これら子育て支援対策についてご意見いただければと思います。

(2) 教育全般についての意見交換(町長提案事項)

①教育費及び子育て支援対策について

下田委員：先程の教育委員会議で、要保護及び準要保護児童生徒の認定の議題がありました。生活困窮世帯から申請が上がってきて、1.3の認定倍率に基づき決定されるものですが、この認定倍率1.3以下は以前引き上げていただきました。他の町村を見ても1.3倍は相場かとは思いますが、その数字をさらにもう少し引き上げていただけるともっと良いと思います。手続きとしては、申請いただいて認定するという流れで、本当は認定倍率を下回る世帯にはプッシュ型がありがたいですが、ただ認定倍率が上がりましたというメッセージがあると、安心して教育に励むことができるのかと思っています。昨今、かなりの物価高騰が生活を圧迫しているので、その辺の手当があるとありがたいと思います。

町長：1.1から1.3に上げて対象者は増えました。他の町と比較しても、本町においては幅広く支援していると思っています。認定倍率については、当時は1.5も含めた議論をしましたが、1.3が妥当ということで決定しました。私も学校教育を担当したことがあります。当時農家の方は、白色申告をしていて所得が把握できないということで、申請は出さないようにとの取扱いがなされていました。過去は農家の方からは、出されていませんでしたし、本当に大変な方たちも出してはいないということ、その時初めてわかりました。今はそのような差別はないですが、先程言われたプッシュ型は所得の把握など難しいと思います。国からの補助もないので、生活保護対象の1.5に引き上げるのは難しいと考えています。

下田委員：プッシュ型は難しいと思いますので、せめて認定倍率を少しでも引き上げることでメッセージが伝わるとと思います。

越湖委員：個々の家庭にという見方を方向を変えてみると、新築は難しいと思いますが、近場で子どもたちに児童館のような場所を提供できると良いと思います。幼児なら午前中にそこへ行って遊べたり、午後からは放課後子ども教室等で利用できると良いと思います。町民センターや体育館は固定した場所ではなく、子どもたちが使える遊び物が常にそこにあるわけではありません。こども館は学童で使っていて誰でも行けるわけではないので、まず要望したいのは児童館です。そこに家庭的要素を含めると、例えばキッチンがあると子どもたちと一緒にニセコの食材を使って調理をして、食育のような場を提供したり、イベントを開催したり、参加型の場を提供してもらえると行きやすく、気持ちも含めて豊かになると思います。加えて言いますと、放課後子ども教室は町民センターの小ホールをお借りして実施しています。広さがありますが、他の人も使っているので、走ると注意されたりします。学校が終わって解放されて遊びたいという子どもたちの中には、外に行く子もい

れば中で遊びたい子もいるので、気を使わなければいけないということもあります。本も、こども館を利用していた時は、あそぶっくからコンテナに30冊程を借りて来ていましたが、町民センターは借りているスペースが少ないので、置いておくというわけにはいきません。読み聞かせをしたい時はあそぶっくに行って借りてきて提供することはできますが、こちらからの提供と子どもたちの意思とは違うと思います。学校訪問に行った時に不登校の子もいるという話を聞いたので、児童館のようないろいろな子が利用できて、交流を持てる暮らしやすい場所が必要なのではと思います。

町長：最初こども館を建設する時は、十分な広さを確保できるというシミュレーションでしたが、実際にはどんどん利用児童が増えて足りなくなってしまう、放課後子ども教室は町民センターと体育館を使ってもらっているところ

です。
越湖委員：以前は、子どもたちが遊ぶ物を自分で出して遊んで片づけるということをしていましたが、町民センターは棚が少ないので、こちらから提供することはできても自分で選ぶことができない状況です。

町長：現実的に今利用できる場所はありますか。

町民学習課長：走り回ったりするので、町民センターや体育館のアリーナを使っている、体育館の会議室には物品を置いていて使う時に持ち出しています。

越湖委員：希望としては子どもたちが目で見て行動できることが1番で、例えば、みんなで制作した物を一時的に置いておいて、次に来た時に続きをするということを楽しんでいた時期もあったので、必要なことだと思います。

町民学習課長：こども館で活動していた時はできていたことですか。

越湖委員：倉庫が隣接していたので開錠しておく、自由に物を取ることができました。

町長：町民センターは会議が多いので、走り回ると響くので難しいですね。

副町長：こども館の2階で活動をしていた時は、環境が整っていて特に問題はなかったということですか。それとも、今もなかなかスムーズにはできていないですが、こども館の2階にいた時も狭かったり、そもそもの環境が理想的ではなかったということですか。

越湖委員：当時にすると狭いと思いましたが、今の環境を考えたら、自分たちの城として活動できていたので、良かったと思います。

町長：建てるとしても急にはできないので、今ある施設で有効利用できるものがあれば活用したいですね。体育館を使えると良いですね。

越湖委員：広さがあればということでもなくて、活動の種類によって対応できる空間があると良いです。

こども未来課長：放課後子ども教室は、これまで町民学習課で所管していましたが、来年度からはこども未来課が所管することになります。単純に今までやっていたことを引き継ぐのではなく、もう一度、こども館の子どもたちと一緒に本当に安心して過ごせて、いろんな活動ができる場を組み直したいと考えています。その日のプログラムによっては体育館を借りたり、もう一度

放課後子ども教室をこども館でやったり、あそぶっくに行ってみんなで絵本を読んだり、理想は年間毎日用意してあげると良いと思っています。子どもたちのお金の貧困とは別として、学びや遊びや体験の貧困を改善したいと思っています。今の状況では、こども館を使う子と使わない子では、保育が必要かどうかで分かれています。子どもの遊びは親の就労に関係なくいろいろな意思があると思うので、垣根をなくして過ごせる体制を作りたいと思っています。将来的には子どもが安心していられる拠点があった方が良いでしょう。現実には今はないので、当面はヤドカリのような状態を続けながら、体制を作りたいと考えているところです。

町長：学校施設は使いづらいですか。

教育長：今はコロナのこともありますが、総合体育館も希望者がたくさんいると学校施設も使っていない時は使えるように、柔軟な体制で貸し出しができると思う。ただ、管理に学校職員を配置するというにはならないので、人が必要にはなると思います。施設そのものは、コロナがあれば、中学校も高校も部活動の状況も見ながら、有効に使っていききたいと思います。

町長：海外では学校施設で専門の指導員が入って、そのまま遊べる環境がたくさんあるようですが、管理上の問題で学校の施設を使うのは難しいですか。

教育長：体育館もあってということになれば学校が一番良いと思いますが、空き教室があればそこを使ってということもできるのかと思います。学校の中だと、先生たちの管理とは別に、放課後の受け皿になるスタッフがいて活動できれば、働き方改革ともうまく連動できると思います。

町長：将来的には、公営住宅で木造のコミュニティルームを作るので、そこは広いので、例えば児童館にする方法もあるかもしれません。あそぶっくの裏の土地もうまく活用できればと思います。

副町長：今のお話を聞いていると、いろんな場面が必要かと思いました。屋内運動場や室内で物を出して遊べるスペースも必要かと思いました。

越湖委員：外で遊ぶときはちびっ子広場もありますし、体育館も予約をすれば使えますので、拠点となる場所がないということです。また、町の税金で購入させていただいている玩具は、子どもたちに使う権利があると思うので、学童や放課後の分けではなく、子どもだったら使って良いのではないかと思います。

町長：ニセコ医院の2階の活用も含めて、現状でできることがあればみんな協力して、将来的には考えなければいけないと思います。高校の寮に組み込むことは難しいですか。

教育長：寮は今は60人規模で考えていましたが、規模を拡大して、大学生や子どもたちの受け入れもできないものかと思いました。視察に行ったところでは、小体育館があったところもありましたが、建設費がどうなるかも考えると難しいと思います。寮のセキュリティもきちんと区分けができて、公営塾もありますので、町民や子どもたちが利用できる共存スペースとして可

能なのかも考えなければいけないと思います。

町長：みんなで調整しながら、現実的に対応できるところは協力しながら進めていければ良いと思います。保育に欠けるとか欠けないで区別する時代ではないと思います。保護者が自由に選択できるようになると良いと思います。

②ニセコ高校の今後について

教育長：本日の教育委員会議で、学科転換することは承認いただいたので、北海道へ配置計画への掲載を依頼します。町立学校なので、道教委が良い悪いということはないですが、入試の生徒への影響もあるので、令和5年度の配置計画に掲載してもらって、令和8年度から新しい学科に移行するような流れになっています。併せて寮の問題も、今年は20人強の出願者ですが、30～40人に増やすためには、どうしても近隣だけでは難しいので、全道や道外から来てもらわなければなりません。そのためにも寮が必要になります。多方面から人材が入ってくることによって活性化していくと思っていて、特に大学との連携協定で大学生が入ってくることによって、町内に刺激をもたらすような仕組み作りができればと思っています。ニセコ高校をキーにして、いろいろな大学が連携協定を結びたいとか一緒に研究していきたいというお話はあります。当面、小樽商科大学が3月28日に、ニセコ高校生が企業からの支援をもらって小樽商科大学の2部に入って、仕事をしながら大学に進学できるような提案をいただいています。

町長：多様な連携ということで、いろいろな大学が集まれる仕組みがあると良いと思います。大学に進学しづらい理由の中に、金銭面があると思います。生活費等も物凄い負担になると思います。

教育長：札幌の大学生も学生支援機構から借りたりすると、卒業する頃にはかなり多額の借金になるので、企業でも負担するというところで求人募集するところもあります。昔は奨学金が免除になる職業がありましたが、今はないと思います。

町長：10年程前だと思いますが、町独自の奨学金を作りたいということで、教育委員会にも調べてもらいました。今はいろいろな奨学金制度があるので、町であえて作る必要がないという結論でしたのでやめた経緯はあります。

教育長：町の社会福祉協議会にも制度がありますが、そちらを利用している実績もないようです。

町長：みなさんが使いやすい既存の制度があれば、例えば町として利子補給をする等やり方はあると思いますが、実態がわかっていません。応援できる制度は作りたいと思っているのと、保育士などの奨学金を応援しているところはたくさんあると思います。

③インターナショナルスクールとの連携及び学校施設の有効活用について

教育長：コロナで学校間の交流が中断していました。スキー大会も今年は行事と重なったようで、参加はできませんでした。中学部もできたので、中学校との交流もあると良いと思っています。

町長：小中学校は、それぞれの公立学校に籍をおいてインターナショナルスク

ールに通っている状況ですか。

教育長：これまでは区域外就学という扱いをしていましたが、インターナショナルスクールが長期休業に入ると、児童はそれぞれの公立学校に通っていることもあって、公立学校の児童生徒としてカウントはしておいてインターナショナルスクールに通っているということとしました。在籍児童生徒としてカウントしているので、急な対応になった場合も、クラス展開はできるので受け入れは可能になっています。

町長：インターナショナルスクールを卒業しても、ニセコ小学校の卒業資格ももらえるということですか。

教育長：個人の申請によります。小学校から中学校は義務教育なのであまり必要はありませんが、中学校から高校へ進学する時には、受験資格として中学校卒業程度ということもあるので、証明が欲しいという方が出てくるかもしれません。インターナショナルスクールの児童生徒は、国内の高校に進学するよりは、札幌の高等部進学や母国に帰るといった場合が多いようです。

町長：できるだけ公立学校と同じように応援したいと思っているので、学校間の連携やスポーツの交流等一緒に進めていただきたい。教育委員会の配慮により、中等部の教室が確保されたことで当面は乗り切れそうですが、将来的には校舎をとという意向があるようです。また、京都の学校で、具体的にはわかりませんが、ニセコで日本語と英語の教育をしたいというお話があります。また、イギリスにある一貫校で共和町にオフィスのようなものを構えるということで、将来的にはニセコエリアに3つ程世界の大学ブランドをおいて、世界の教育文化を定着させたいという思いがあるようですので、今後も話し合いをしながら協力していこうと思っています。

越湖委員：以前こども館で放課後子ども教室を実施していた時に、インターナショナルスクールの子どもたちも来ていたことがありました。当初は言葉の問題等心配な部分はありませんでしたが、子ども同士の遊ぶ機会も作った方が良くと思うので、国際交流員にも手伝ってもらいながら、声かけをして対応していきたいと思っています。

町長：国際交流員も活用していただきたいと思います。国際交流員は4月から教育委員会に配置になりますか。

教育長：今、本人たちの意向も含めて、企画担当と話をしているところです。今、高校の放課後英語教室を実施にあたって、ALTの他に国際交流員にも手伝ってもらっているので、教育現場でALTとは別の視点で、積極的に活用させていただきたいと思っています。

④学校施設の有効利用について

町長：学校開放を多くしてもらいたいと思っています。海外の事例では、各学校に体育館があることはほとんどなくて、共用で使っているところが多いようなので、もう少し幅広く使った方が良くと思います。特に中学校は、町民開放を前提で作っていて、以前料理教室を行ったりしたこともありました。高校は、学校開放を前提に仕切れるようになっていて、総合体育館の第二体

育館として作っています。これまでは活用が少ない感じがするので、積極的に活用をお願いします。

教育長：どうしても管理の話になると思います。教職員については、働き方改革もあって対応することはできないので、対応してもらえる組織作りが必要だと思っています。

⑤音楽鑑賞等文化芸術と触れ合う機会の創設について

町長：子どもたちに音楽に触れる機会を増やすということで、予算計上しています。

町民学習課長：今年、岩内町で劇団四季を呼ぶということで、近隣の自治体にも声かけをいただきました。学校と打ち合わせをしたところ、5・6年生をとということになったので、バス代を予算計上しています。芸術鑑賞会も、中学校高校との演目も変えてもらうように、打ち合わせを進めています。

町長：有島記念館でもコンサートをやってもらっていたり、町民センターのピアノも寄付をいただき、購入させていただきました。

教育長：有島公募絵画展は町内からの出展者が少ないので、絵画や書道等の塾があれば良いと思いますし、町として支援ができれば良いと思います。

町長：多様な塾の選択肢があるというのは大事なことで、町で応援して、子どもたちが触れる環境を多くできれば良いと思います。

教育長：スポーツや芸術等、総合的にニセコ町の教育資源を高めていければと思います。

越湖委員：以前「ニセコの達人」という冊子を作りましたが、いろんなところに活用できると思います。

町民学習課長：以前あった人材登録制度はストップしています。結局あまり申し込みがなかったようです。

町長：人材バンクを是非作ってください。

⑥その他

越湖委員：学校訪問に行った際に、ニセコ高校で牛乳パックを開いておいてあったので聞いたところ、最終的には資源ゴミになるということでした。ある程度大量に集めて道栄紙業に持って行くと紙になるということは子どもたちも漠然とわかると思いますが、SDGsの観点からも、理解させることは必要かと思いました。

巻委員：近藤小学校では金銭に換えて児童会で必要な物を購入していました。それぞれの学校でやり方はいろいろだと思います。

教育長：牛乳パックは各学校で再利用は可能ですか。

給食センター長：対応は各学校に任せていて、生活の家に収集をお願いしていたりしているようです。

町長：ゴミの料金を改正する検討を今後始めます。事業系のゴミが分別されていないところが一部あって、ニセコ町の生ゴミ比率が高いので負担が多いこともあって、事業系のゴミは検討することにしていきます。

下田委員：部活動の地域移行や民間ボランティアの活用等難しいところもあり

ますが、近隣町村では体育館等の施設管理を民間企業を活用をしているところもあるので、子どもたちの利便性の向上や経費削減に資するようなことにつながるのであれば、外部の力も借りながら、いろいろな経験格差も埋められるのかと思いました。

教育長：地域移行に先がけて、いろいろな団体をお願いしているところもあるようですが、かなりの高額な経費がかかるようです。都市部では委託して実施しているところもありますが、管内では何町村かでまとまって実施する等工夫をしなければ、持続可能な受け皿作りは難しいと思います。

4 閉会

町長：貴重なご意見ありがとうございました。できることは速やかにということで取り組みたいと思っておりますので、引き続きよろしく願いいたします。